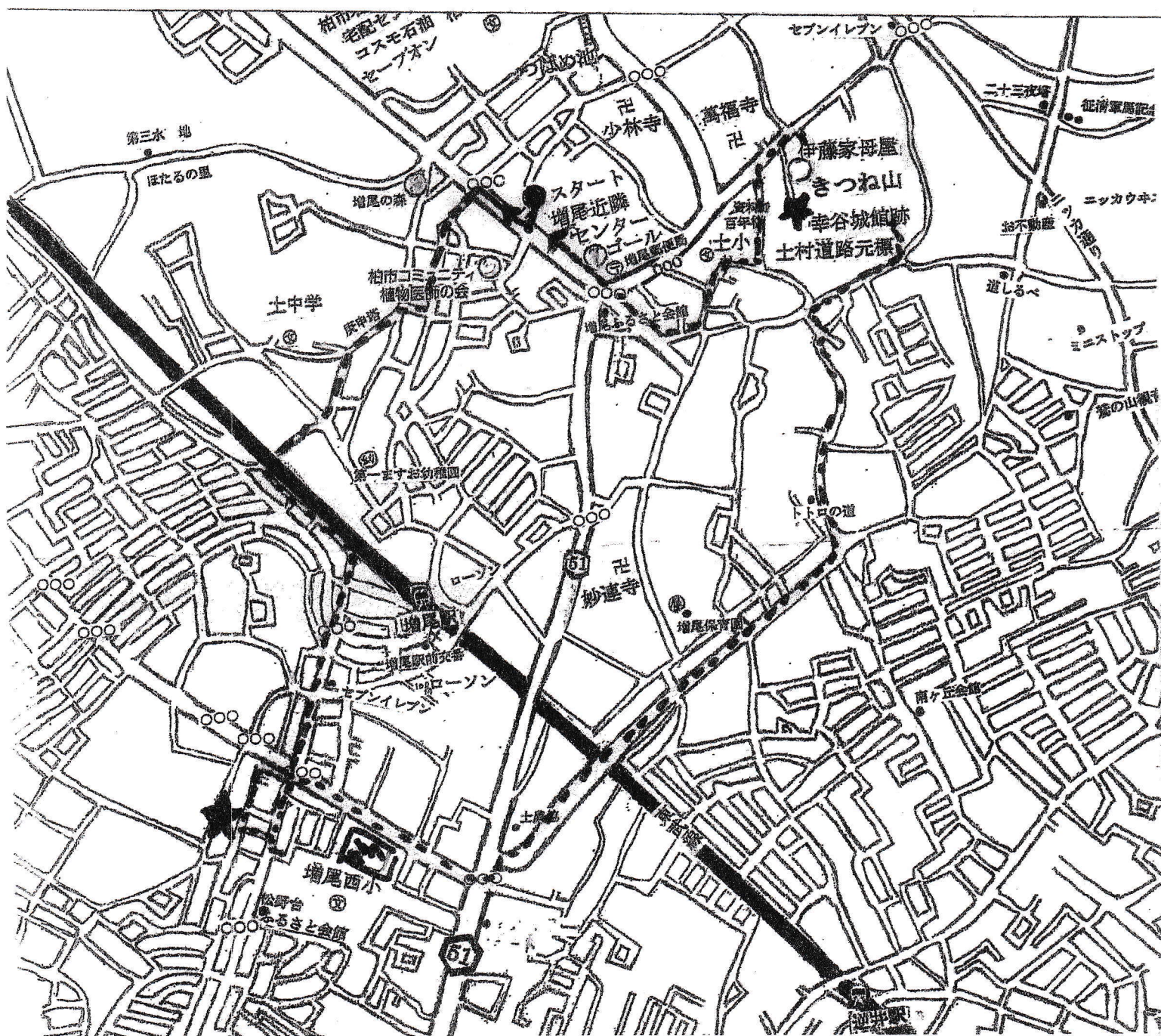


～孤高の画家高島野十郎を訪ねて～

2025 年 12 月 7 日

増尾地域増ふるさと協議会主催

増尾探検隊協力



2025 12月7日 ちいき探検ウォーキングコース

- 1 増尾近隣センター出発 ⇒ 2 伊賀殿交差点左折 ⇒ 3 小山台公園横横断歩道渡る ⇒ 4 土中学校旧正門前 ⇒ 5 登り坂途中左側の道 ⇒ 6 直進して線路の下を左へ ⇒ 7 ほのぼのプラザ後ろ側、防火用水説明、脇から表道路、左側へ ⇒ 8 増尾駅前信号を渡る(右側一斉に) ⇒ 9 信号のないセブンイレブン交差点直進(車に注意!) ⇒ 10 歩車分離交差点を斜めに渡る ⇒ 11 だいたいこの辺りにアトリエあったらしい説明 ⇒ 12 信号なし横断歩道渡る(車要注意!) ⇒ 13 増尾西小学校校庭下、雨水整留池説明 ⇒ 14 ライフ地階、2階トイレ ⇒ 15 県道51号線渡る ⇒ 16 新県道51号線へ渡る(車注意!!) ⇒ 17 新51号線頂上辺りの説明 ⇒ 18 ポスト、電話ボックスを通過 ⇒ 19 左折して突き当りを右側(トトロの道説明) ⇒ 20 急な坂道、中台の坂を過ぎ突き当りを右側に進む ⇒ 21 住宅脇小道から幸谷城館後、きつね山、野十郎第2の住居へ ⇒ 22 正門から左折、左側歩く(車多い!!) ⇒ 23 すぐ左折して土小学校(100年桜、二宮金次郎像) ⇒ 24 T路地の土村道路元標を右折 ⇒ 25 信号を渡る ⇒ 26 増尾近隣センター到着

高島野十郎 年譜

- 明治 23 年 (1890 年) 福岡県久留米市に生まれた
- 明治 43 年 (1910 年) 19 歳 父善蔵死去
- 明治 45 年 (1912 年) 21 歳 東京帝国大学農学部水産学科入学
- 大正 5 年 (1916 年) 25 歳 同学科を首席で卒業、数年同大学で助手をしたらしい
- 昭和 4 年 (1929 年) 39 歳 渡欧、フランス、ドイツ、オランダ、イタリアをまわる
- 昭和 8 年 (1933 年) 43 歳 帰国。福岡県久留米市にアトリエ兼住居
- 昭和 20 年 (1945 年) 54 歳 空襲で家を焼かれ、姉スエノの嫁ぎ先へ疎開
- 昭和 23 年 (1948 年) 58 歳 東京港区青山南町に移る
- 昭和 36 年 (1961 年) 70 歳 柏市増尾 2026 に移る、自分で設計したアトリエを作る
- 昭和 46 年 (1971 年) 81 歳 12 月に柏市増尾 1380(伊藤家)に移る
- 昭和 50 年 (1975 年) 84 歳 6 月田中農協病院入院
- 昭和 50 年 (1975 年) 85 歳 9 月 17 日死去

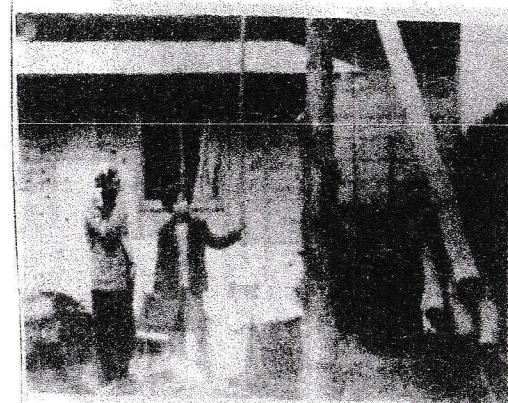
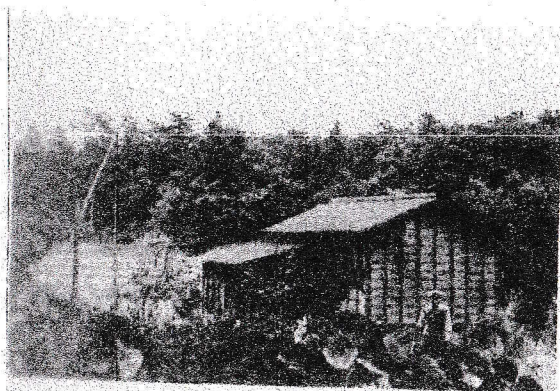


高島野十郎

1970年11月3日(80歳)撮影



昭和49年最後の個展で 前列左野十郎



柏の人たち

昭和39(1964)年の東京オリンピックに伴う道路工事で青山南町の家を立ち退くこととなった野十郎は、千葉県柏市増尾の田園の中に新たなアトリエの場所を見つける。

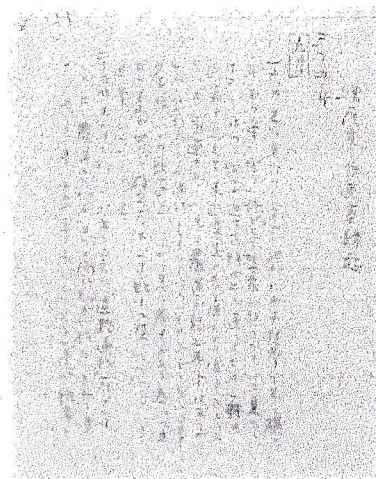
通りがかった農家の伊藤武(1937生)の妻に土地のことを聞いたことがきっかけとなって、伊藤武は野十郎が柏で生活していく上での世話を親身に行った。

肥料や農薬などに野十郎が精通し、野菜や草花の栽培にも長けていたことに驚き、「画家さん」と呼んで野十郎と親しく接した。

伊藤武の縁者の伊藤辰五郎(1904生)も、野十郎の一途な性格が気に入って親しくなり、足腰が弱った野十郎の最晩年の生活を見守った。

柏の人々との素朴で隔てのない交わりが、70歳以降の画業と生活を支えていた。

(西本)



野十郎の経歴は、昭和39年(1964)年の東京オリンピックに伴う道路工事で青山南町の家を立ち退くこととなった。千葉県柏市増尾の田園の中に新たなアトリエの場所を見つける。通りがかった農家の伊藤武(1937生)の妻に土地のことを聞いたことがきっかけとなって、伊藤武は野十郎が柏で生活していく上での世話を親身に行った。肥料や農薬などに野十郎が精通し、野菜や草花の栽培にも長けていたことに驚き、「画家さん」と呼んで野十郎と親しく接した。伊藤武の縁者の伊藤辰五郎(1904生)も、野十郎の一途な性格が気に入って親しくなり、足腰が弱った野十郎の最晩年の生活を見守った。柏の人々との素朴で隔てのない交わりが、70歳以降の画業と生活を支えていた。

高島野十郎(1904-1975) 増尾高島画塾起

(上) fig. 25:
高島野十郎「増尾高島画塾起」
アトリエ完成までの経過の記録
福岡県立美術館(225-226頁参照)

(下) fig. 26:
伊藤辰五郎による野十郎についてのメモ
昭和50(1975)年 福岡県立美術館(235-236頁参照)



片山攝三「高島野十郎」
"Mr. Yajyuro Takashima" by Setsuzo Katayama
昭和27年(1952) モノクローム・プリント
43.3×33.9cm
福岡県立美術館

12月7日 ちいき探検ウォーキング 説明

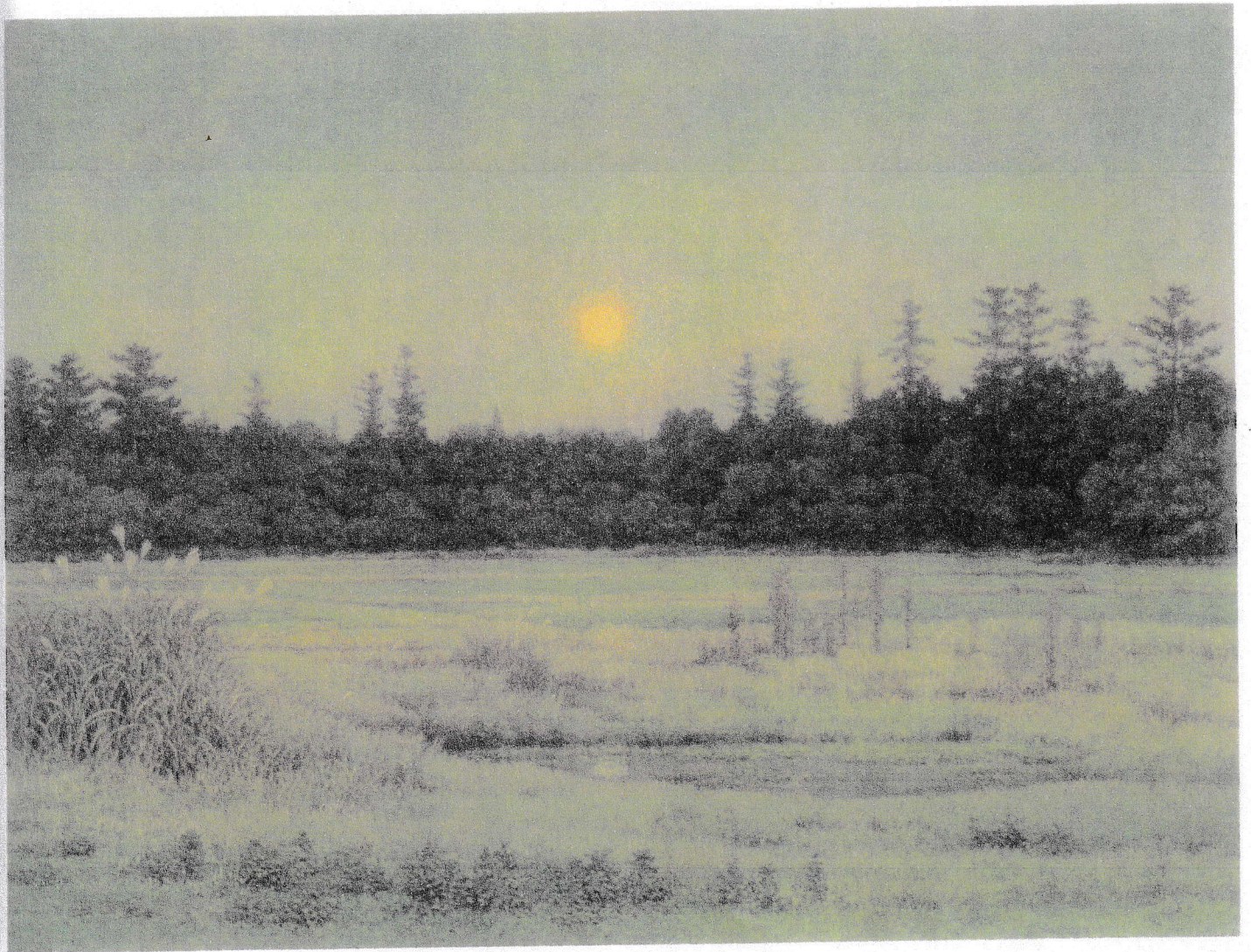
- ① 防火用水の建物 東急建設が現在の加賀町会と松野台自治会を東急第一分譲、第二分譲として宅地開発した時の下水処理場。今は柏市が防火水用に管理している。
- ② 高島野十郎のアトリエはこの辺り。野十郎が書いた封筒に柏市増尾三本木台2026と書かれていた。現在は増尾台2丁目辺り。三本木の名前が残っているのは公園名くらい。
- ③ 増尾西小学校校庭下の雨水整溜池は柏市による雨水が増水した時にいっぺんに流れないための施設。校庭の下も掘ってあり面積は柏市としては大きい。
- ④ 新51号線の頂上辺り。日の出を見るのに良い場所。増尾駅と逆井駅が見える。夜にはスカイツリーやアリオの灯り、藤ヶ谷の灯りも見える。
- ⑤ トトロの道。以前土小学校の生徒たちが「トトロの道」と名づけた。以前は鬱蒼としていたが今は切り株が残っている。
- ⑥ 幸谷城跡、きつね山、高島野十郎の増尾第二のアトリエの伊藤家。春になると金蘭、銀欄が咲く。茅葺屋根も見どころ。

12月7日 ちいき探検ウォーキング 増尾の人々の言葉

- 1 小さい頃何処かに出かけところを見たことがある。山高帽にコートを着ていて背が高くぼりっとしていて目立った。
- 2 野十郎のアトリエの近くにあるため池に睡蓮を植えさせてくれと言って植え、描きあがったら、黒い自転車に乗ってバターケーキと油紙に包んだ睡蓮の絵持って来た。気に入らなかったら薪にでもしてくれと言われた。立派な絵でした。

高島野十郎の言葉

野十郎は市川市に住む姪に「ここはパラダイスだ」と言ったそう
だ。増尾三本木では井戸をほり、自作の池に睡蓮を植え、農耕に
も勤しみむ晴耕雨画の自由な生活は正に「パラダイス」だったの
ではないだろうか。



74

夕暮れ時を迎え、東の空からぼっかりと顔を出した満月と、その温かな光に照らし出されたのどかな田園風景が展開されている。野十郎はこの頃千葉県柏市に移り、人里離れた田園にアトリエを建てて暮らし始めた。静かであるだけでなく、豊かな自然にいだかれたこの柏の地を野十郎は「パラダイス」と呼び、心から愛したという。美しい柏の月に魅了された野十郎はその後、月の連作を手掛けるようになった。本作はその最初期に位置するものであり、今日も柏の人に愛蔵されている。（高山）

81 《林中の太陽》*Sun in the Woods* 昭和23(1948)年以降 45.4×38.0 cm 光本巧子氏蔵

73 《高原の道》*Path in the Highlands* 昭和33(1958)年 24.5×33.2 cm 個人蔵

74 《夕月》*Evening Moon* 昭和36(1961)年頃 45.5×60.5 cm 個人蔵